事務事業名		ごみ収集・処理事業		☒ 実施計画掲載事業		☐ 合併建設計画掲載事業				
政策体系	政策名	02 自然豊かな環境の保全と創造		事業期間 ☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始 昭和45 年度～) ☐ 期間限定複数年度 【計画期間】 年度～年度 ※全体計画欄の総投入量を記入		予算科目				
	施策名	06 廃棄物処理対策の推進				会計	款	項	目	事業
	基本事業名	01 ごみの適正処理とリサイクルの推進				04	03	01	01	01
根拠法令		廃棄物の処理及び清掃に関する法律								
所属	部課名	大船渡地区環境衛生組合								
	課長名	安田由紀男(事務局長)								
	係名	総務係	電話	26-4739						
	担当者	佐々木卓也	内線	434						
事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)						全体計画(※期間限定複数年度のみ)				
管内で発生する家庭ごみ(可燃ごみと不燃ごみ)を収集し、分別・保管・処理を適正に行う事業。 主な業務は、直営及び委託によって可燃ごみと不燃ごみを、収集・分別・保管・処理の順で適正に行う。また、施設や車輛の保守点検を定期的に行い必要に応じて修繕するとともに、施設稼働による周辺環境への影響を調べるための測定業務も定期的に行う。 事業費は、可燃ごみおよび不燃ごみの収集委託費、中間処理費、広域運搬費等に支出される。						総投入量 (千円)	事業費	国庫支出金		
							都道府県支出金			
							地方債			
							その他			
							一般財源			
						事業費計(A)	0			
						人件費	正規職員従事人数			
						延べ業務時間				
						人件費計(B)	0			
						トータルコスト(A)+(B)	0			

1 現状把握の部(DO)

(1) 事務事業の目的と指標		⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)							
① 手段(主な活動)		名称		単位					
前年度実績(前年度に行った主な活動)		ア 直営及び委託によるごみ収集量と一般持込量		トン					
ごみの収集、分別、保管		イ 大型パッカー車への積込中継量		トン					
今年度計画(今年度に計画している主な活動)		ウ ごみの資源化量		トン					
前年度と同じ		⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標)							
② 対象(誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等		名称		単位					
管内(大船渡市・住田町)の住民等、廃棄物		カ 管内の人口(大船渡市・住田町)		人					
		キ 家庭ごみ(可燃ごみと不燃ごみ)量		トン					
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)		⑦ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)							
管内から発生するごみを適正に処理する		名称		単位					
		サ 適正に処理されたごみ処理の割合		%					
④ 結果(基本事業の意図:上位の基本事業にどのように貢献するのか)		シ 施設稼働の環境基準適合率(煙・音・臭い・水質)		%					
発生したごみを適正に処理する。		ス 資源化率		%					
(2) 総事業費・指標等の推移									
投入量	事業費	国庫支出金	千円	23年度(実績)	24年度(実績)	25年度(実績)	26年度(目標)	27年度(目標)	28年度(目標)
		都道府県支出金	千円						
		地方債	千円						
		その他	千円						
		一般財源	千円	72,697	78,599	82,982	85,000	85,000	85,000
	事業費計(A)	千円	72,697	78,599	82,982	85,000	85,000	85,000	
	人件費	人	11	10	9	8	8	8	
	正規職員従事人数	時間	14,000	15,600	14,800	10,880	10,880	10,880	
	延べ業務時間	千円	56,000	62,400	59,200	43,520	43,520	43,520	
	人件費計(B)	千円	128,697	140,999	142,182	128,520	128,520	128,520	
トータルコスト(A)+(B)	千円								
⑤ 活動指標	ア	トン	10,745	10,757	11,212	10,745	10,745	10,745	
	イ	トン	10,239	9,789	10,028	10,745	10,745	10,745	
	ウ	トン	698	836	889	698	698	698	
⑥ 対象指標	カ	人	45,696	45,343	44,935	45,700	45,700	45,700	
	キ	トン	10,076	9,941	10,696	10,076	10,076	10,076	
	ク								
⑦ 成果指標	サ	%	100	100	100	100	100	100	
	シ	%	100	100	100	100	100	100	
	ス	%	6.16	7.46	7.80	7.46	7.46	7.46	

事務事業ID	1083	事務事業名	ごみ収集・処理事業
--------	------	-------	-----------

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等	
① この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？	管内から排出されるごみの収集・運搬・処理を行うため、昭和45年に一部事務組合として大船渡地区環境衛生組合が設置された。
② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は、開始時期あるいは前期基本計画策定時と比べてどう変わったのか？	対象者は変わっていないが、社会情勢の変化に伴い、根拠法令(廃棄物の処理及び清掃に関する法律)等の改正がある。平成12年度からは、焼却に係る業務については広域で処理することとなった(大船渡地区環境衛生組合と釜石市)。また、平成23年度より、岩手沿岸南部広域環境組合が稼働し、3市2町での広域処理となった。
③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？	週1回の収集地域からは、ごみ収集回数を増やして欲しいとの要望がある(平成24年度より日頃市町の週1回地域は週2回に変更した)。

2 評価の部(SEE) * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 結びついている ⇒【理由】⇒ ごみ収集・処理が適正に行われることは環境保全に結びつき、生活環境の向上につながる。
	② 公共関与の妥当性	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 妥当である ⇒【理由】⇒ 自治体の責務として『法』に位置づけられている。
	③ 対象・意図の妥当性	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 適切である ⇒【理由】⇒ 管内の住民・事業所・廃棄物が対象であり、追加の余地はない。また、ごみの適正処理が意図であり、適切である。
有効性 評価	④ 成果の向上余地	☐ 向上余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 向上余地がない ⇒【理由】⇒ 可燃ごみと不燃ごみの分別が適正でなく、リサイクル資源も有効活用できていないうえ、一部に事業系ごみも混入している。また、直接持込者に対する対応に追われ、分別も難しい。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響	☐ 影響無 ⇒【理由】⇒ ⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 影響有 ⇒【その内容】⇒ 住民生活に直接関わる事業であり、休止すれば住民サービスの低下を招き生活環境が悪化する。また、不適切な焼却処理や不法投棄など、不衛生で生活環境に悪影響を及ぼすような処理をされることが想定される。
	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性	☐ 他に手段がある ⇒ (具体的な手段, 事務事業) ☐ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】⇒ ⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】⇒ 収集・処理事業は他の事務事業ではできない。また、類似事業もない。 ☒ 他に手段がない ⇒【理由】⇒
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地	☒ 削減余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☐ 削減余地がない ⇒【理由】⇒ 機械メンテナンスを定期的、確実に行い、修理・修繕費を抑える。また、ごみを排出する住民の工夫次第でごみ量を減量できると思われる。(再利用・水切り・買い方など)
	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地	☒ 削減余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☐ 削減余地がない ⇒【理由】⇒ 委託の拡大
公平性 評価	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地	☒ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ ⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☐ 公平・公正である ⇒【理由】⇒ 本来、一般家庭ごみの処理施設でありながら、一部事業系からも排出されるため、結果、住民負担で処理されている。

3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

<p>(1) 1次評価者としての評価結果 (2枚目と整合を図ること)</p> <table border="1"> <tr> <td>① 目的妥当性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>② 有効性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>③ 効率性</td> <td>☐ 適切</td> <td>☒ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>④ 公平性</td> <td>☐ 適切</td> <td>☒ 見直し余地あり</td> </tr> </table>	① 目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	② 有効性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	③ 効率性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり	④ 公平性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり	<p>(2) 全体総括(振り返り、反省点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自治体の責務から目的妥当性はあるが、効率性・公平性の面からは、改革・改善の余地があると思われる。 ・事業費の削減や受益の偏りを改善するなど、効率的な収集業務が行えるよう地域事情に配慮した対応をとることで、自治体業務としてより高度な事業展開が望まれる。 ・津波により、市内に設置してある、ごみ集積ボックスの約2割が流出したが、震災3日目から避難所のごみの収集を開始した。また、一般持込みごみの受け入れも12月より再開し、ほぼ震災前の業務に復旧した。 									
① 目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																				
② 有効性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																				
③ 効率性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり																				
④ 公平性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり																				
<p>(3) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は重複不可)</p> <p>☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統合・連携 ☐ 現状維持</p> <p>事業のやり方改善 (☐ 有効性改善 ☒ 効率性改善 ☒ 公平性改善)</p> <p>(上記方向性に対する具体的な内容)</p> <p>収集ルートの再考や、ステーションの配置など、効率的な収集を行うための対応、及び機械の整備点検をこまめに行い、可能な限り修繕費の支出等を抑える。</p>	<p>(4) 改革・改善による期待成果</p> <p>左記(3)の改革改善案を実施した場合に期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。 (廃止・休止の場合は記入不要)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td>●</td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </tbody> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持	●		×	低下		×	×
				コスト																		
		削減	維持	増加																		
成果	向上																					
	維持	●		×																		
	低下		×	×																		
<p>(5) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策又は特記事項等</p> <p>課題として⇒(地域により収集回数に差があることの改善。ペットボトルなど新たな分別収集への取り組み。事業系ごみの適切な処理指導。)</p> <p>解決策として⇒(コース再編の検討や資源古紙回収との連携によって対応する。事業系ごみに関しては各事業所への啓発や指導。)</p>																						

(職名) ※原則として施策の主管課長 (氏名)

4 事務事業の2次評価結果

2次評価者	事務局長	安田由紀男
-------	------	-------

<p>(1) 1次評価結果の客観性と出来具合</p> <p>①記述水準(1次評価の記述内容を読んだ段階で選択)</p> <p>☐ 記述不足でわかりにくい</p> <p>☐ 一部記述不足のところがある</p> <p>☒ 記述は十分なされている</p> <p>②評価の客観性水準(2次評価を行った後に総合的に判断して選択)</p> <p>☐ 客観性を欠いており評価が偏っている(事務事業の問題点、課題が認識されていない)</p> <p>☐ 一部に客観性を欠いたところがある</p> <p>☒ 客観的な評価となっている(事務事業の問題点、課題が認識されている)</p>																						
<p>(2) 2次評価者としての評価結果</p> <table border="1"> <tr> <td>① 目的妥当性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>② 有効性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>③ 効率性</td> <td>☐ 適切</td> <td>☒ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>④ 公平性</td> <td>☐ 適切</td> <td>☒ 見直し余地あり</td> </tr> </table>	① 目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	② 有効性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	③ 効率性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり	④ 公平性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり	<p>(3) 評価結果の根拠と理由</p> <p>・現状把握が適切に行われており、一次評価は妥当と認められる。</p>									
① 目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																				
② 有効性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																				
③ 効率性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり																				
④ 公平性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり																				
<p>(4) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は重複不可)</p> <p>☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統合・連携 ☐ 現状維持</p> <p>事業のやり方改善 (☐ 有効性改善 ☒ 効率性改善 ☒ 公平性改善)</p> <p>(上記方向性に対する具体的な内容)</p> <p>・可燃ごみ及び不燃ごみの収集運搬業務については、H24～H26までは、可燃ごみ(直営2台、委託5台)、不燃ごみ(全部委託)で実施するが、H27に職員の減員が見込まれることから、早急に対処策について検討する。併せて、事業系ごみについては、処理状況を確認しながら、広報や指導を行う。</p>	<p>(5) 改革・改善による期待成果</p> <p>左記(4)により期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。また、1次評価と内容が異なる場合には、1次評価の結果も「○」で記入する。 (廃止・休止の場合は記入不要)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td>●</td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </tbody> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持	●		×	低下		×	×
				コスト																		
		削減	維持	増加																		
成果	向上																					
	維持	●		×																		
	低下		×	×																		

5 最終評価結果

(1) 行政経営推進会議等での指摘事項